

## もの言う牧師のエッセー 第121話

## 「ゴーストライター」

「現代のベートーヴェン」などと全響の作曲家として国内外の注目を集めてきた佐村河内守氏がゴーストライターであることが発覚し、日本中に衝撃が走った。耳が聞こえないというのも初めから嘘であった可能性が高いという。とにかく何もかもが完璧なタイミングで彼の偽ブランドが露呈してしまった。

“被爆2世”の彼は、2011年の震災直後に発表した「交響曲第一番HIROSHIMA」でクラシック界では異例の18万枚を売り上げ、昨年3月10日には震災直後に避難所となった石巻市立湊小学校で演奏した「被災地のためのレクイエム」で多くの人々に感動を与え「NHKスペシャル」で特集までされた。さらには、ちょうど開催中のソチ五輪で男子フィギュアの高橋大輔選手が彼の曲「ヴァイオリンのためのソナチネ」で滑ったが、「このタイミングとは勘弁してくれ」と本人の弁。

すでにNHKは前面謝罪に追い込まれ、CD発売元の「日本コロムビア」はCD出荷停止、彼を絶賛してきた音楽評論家たちは手のひらを返して批判をし出したりと喧しい。しかし、この問題は音楽界など芸術分野にだけにとどまらないもっと普遍的なことのように見える。つい最近まで「芝えび」がバナメイエビ、「レッドキャビア」がトビウオの卵、「ステーキ」が加工肉、なんてのが全国の有名ホテル、旅館、レストラン、大手百貨店で続出し、関係者が謝罪や返金をしたことがあったが実に良く似ている。粉飾決算、データ改ざん、損失隠しなども同様だ。まさに聖書が言う

**「見よ。彼らはみな、偽りを言い、彼らのなす事は空しい。」**

**彼らの鑄た像は風のように形もない。」イザヤ書 41 章 29 節**

とはこのことだ。日本には神を似せて作った多くの神様がいるが、偽りで膨らませただけのゴーストに過ぎない。本物の神の意味であるメシア・キリストを信じ、心の目を開いていたとき、本物とゴーストをしっかりと見分けよう。

2014-2-20

